

## 新編 武州古文書

すぎやま・ひろし

はぎわら・たつお

作者: 杉山博(1918-1988) 萩原龍夫(1916-1985)

成立: 昭和50-53年(1975-1978)



## 解題

## Keyword

- 「新編武蔵風土記稿」
- 「武州文書」
- 青木昆陽(敦書)
- 「諸州古文書」
- 「武州古文書」
- 徳川吉宗
- 小田原北条氏
- 金沢文庫古文書
- 関東公方
- 林述斎
- 昌平坂学問所
- 間宮土信
- 相州文書

本書は、『新編武蔵風土記稿』(#22)を編集するために、江戸幕府の命により文化・文政年間(1804-30)に集められた「武州文書」を中心とする。これに加えて、青木昆陽(敦書)が寛保年間(1741-44)に幕命を受けて編集した「諸州古文書」のうちの「武州古文書」、『新編武蔵風土記稿』所収の「武州文書」に収録されなかった古文書、及び戦後発見・紹介された古文書を収録している。武蔵国の古文書を集大成した史料集。

## ■ 成立経緯

武蔵国の古文書の採訪・調査と編集・研究としては、まず、江戸幕府8代将軍・徳川吉宗のとき、青木昆陽に命じ採訪・蒐集させた「諸州古文書」がある。次に、文化・文政年間に編集された『新編武蔵風土記稿』のために、江戸幕府が改めて採訪を命じた「武州文書」がある。その他、昭和34年(1959)には、東京大学史料編纂所と埼玉県教育委員会によって埼玉県下所在の古文書の悉皆調査が行われ、その成果は、昭和40年(1965)に『埼玉の中世文書』として刊行されている。

昭和33(1958)から35年にかけて、「武州文書」を収録した『武州文書』全6分冊が武相史料刊行会から刊行されている。これは、『新編武州古文書』の原型ともいえるものであるが、謄写版で発行部数も少ないものであった。江戸時代からの古文書の調査・研究を踏まえ、古文書調査の新たな成果を盛り込んだ形で、昭和50年から53年にかけて刊行されたのが『新編武州古文書』である。

## ■ 作者

杉山博は、大正7年(1918)8月4日、足柄下郡小田原町(現・小田原市)に生まれた。昭和16年(1941)、国学院大学史学科を卒業し、翌17年2月、近衛野砲兵聯隊補充隊に現役兵として入営、同年10月に豊橋予備士官学校を卒業した。戦時中は迫撃砲小隊長としてビルマ戦線を転戦した。昭和21年5月に復員後は、国学院大学図書館司書、東京帝国大学資料編纂所嘱託、東京大学教授、駒沢大学教授、足立区立博物館長などを歴任した。また、藤沢市史編纂委員、厚木市史編纂委員、小田原市文化財保護委員など、神奈川県内の自治体史編纂、文化財保護の仕事にも携わった。昭和63年(1988)10月20日、70歳で死去した。専攻は日本中世史で、著書として『庄園解体過程の研究』(東京大学出版会 1959)、『戦国大名後北条氏の研究』(名著出版 1982)などがある。

萩原龍夫は、大正5年(1916)7月18日、東京都深川区(現・東京都江東区)で生まれた。昭和16年(1941)、東京文理科大学(現・筑波大学)史学科を卒業した。東京学芸大学助教授を経て、明治大学教授に就任。昭和60年(1985)、68歳で死去した。専攻分野は日本中近世史だが、柳田国男に師事し、歴史民俗学の研究者としても知られている。編著に『中世祭祀組織の研究』(吉川弘文館 1962)、『北条史料集』(人物往来社 1966)、『巫女と仏教史』(吉川弘文館 1983)などがある。

## ■ 内容

武蔵国に存在する天長2年(825)から文政4年(1821)までの古文書2,690通を収録している。上巻は、「武州文書」所収の古文書1,398通を中心に、「諸州古文書」のうちの「武州古文書」所収の古文書38通と、『新編武蔵風土記稿』所収の古文書266通、合計1,702通を収録している。下巻には、上巻の3書に収録されず、かつ近年発見・紹介された古文書988通を収め、巻末には、上・下巻所収文書の編年総目録を付している。文書は郡別に編集し、現存文書には現蔵者名を注記している。

収録文書の内容は、多岐にわたっているが、戦国期までの支配文書が多く、小田原北条氏とその一族関係のものが中心で、同時代の周辺地域の諸大名関係の文書も多く含まれている。また、鎌倉期の古文書には、金沢文庫(古)文書といわれているものが含まれ、室町時代中期から南北朝期にかけては、関東公方足利氏関係の古文書が多い。

## ■ 武州古文書

江戸幕府8代将軍・徳川吉宗のとき、青木昆陽に命じて、元文5年(1740)から寛保2年(1742)に4回にわたって三河・遠江・伊豆・相模・武蔵・甲斐・信濃の7か国に古文書探訪を行わせ、主要なものを選んで影写させた。これら7か国はいずれも徳川氏と関係の深い地域で、吉宗は徳川氏関係の史料を搜索

したと考えられている。この調査は、初めて直接現地に赴いて行われた悉皆調査であり、当時としては画期的なことであった。影写した古文書は国別に26巻に編集、23分冊され「諸州古文書」として伝えられた。これらの古文書は、後世の地誌編纂資料として大いに活用された。この中で武蔵国に関する古文書は巻3下、巻12に70通が収められ、一般に「武州古文書」と称されている。

「諸州古文書」26巻23冊は、内閣文庫で影写本を所蔵している。東京大学史料編纂所では、明治20年(1887)頃に内閣文庫所蔵本をさらに影写した本18冊を所蔵している。その他に伝本はなく、「諸州古文書」そのものの刊本はないが、「武州古文書」については『新編武州古文書』に収録されている。

## ■ 武州文書

文化7年(1810)昌平坂学問所地誌調所は、林述斎の指揮のもと諸国の地誌編修に着手し、天保元年(1830)までの20年近くを費やして、『新編武蔵風土記稿』を完成させた。「武州文書」は、その編集の資料とするために、『新編武蔵風土記稿』の編纂者である間宮士信等が調方として武蔵国の村々を調査し、古文書の原本を影写した古文書集である。その時期は明確ではないが、『新編武蔵風土記稿』の編集期間とほぼ一致すると考えられている。鎌倉時代から江戸時代初期にわたる、武蔵国内の古文書約1,400通を収録している。そのうちの約7割にあたる973通の文書が『新編武蔵風土記稿』に収録されている。

収録文書は御府内以下、各郡ごとに別冊とし、19冊に編集してある。現在では、原文書の多くが散逸しているため、史料価値がきわめて高い。天正年間(1573-92)の古文書が大部分を占め、戦国期の関東、特に武蔵国の動向を知るうえでも貴重な史料となっている。

内閣文庫で影写原本19冊を所蔵している他、これをさらに影写したものを東京大学史料編纂所(18冊)などで所蔵している。翻刻本としては、武相史料刊行会の『武州文書』6分冊と『新編武州古文書』が刊行されている。

『新編相模国風土記稿』の編集資料として作成された「相州文書」は、「武州文書」と同じ様式で編集されており、「武州文書」の姉妹編といえるものである。



## 構成

- 上巻 府内 上・府内 中・府内 下・豊島郡・葛飾郡・荏原郡・橘樹郡・久良岐郡・都筑郡・多摩郡・新座郡・足立郡・入間郡・高麗郡・比企郡・埼玉郡・大里郡・男衾郡・幡羅郡・榛澤郡・那賀郡・兒玉郡・賀美郡・秩父郡
- 下巻 府内・豊島郡・葛飾郡・荏原郡・橘樹郡・久良岐郡・多摩郡・新座郡・足立郡・入間郡・高麗郡・比企郡・埼玉郡・大里郡・男衾郡・幡羅郡・榛澤郡・那賀郡・兒玉郡・賀美郡・秩父郡・編年総目録



## 史料本文を読む

### <翻刻本>

- 『新編武州古文書』全2冊 杉山博・萩原龍夫編 角川書店 1975-1978  
[K27/40/1~2] ※下巻末に編年総目録あり

この他、武蔵国の古文書集の翻刻本としては、「武州文書」約1,400通を収録した『武州文書』全6分冊(武相史料刊行会 1958-1960 [K27/15])、埼玉県下所在の古文書を収録した『埼玉の中世文書』(埼玉県立図書館 1965 [213.4/13])が刊行されている。



## 史料についてさらに知る－参考文献－

### <成立経緯、書誌的来歴>

- ◆ 相田二郎「青木昆陽の古文書採訪」「元文・寛保年間における幕府の古文書採訪」同「補説」「江戸時代における古文書の採訪と編纂」(『古文書と郷土史研究』名著出版 1978 (相田二郎著作集3) [K08.7/1/3])
- ◆ 柴辻俊六「日本の修史事業と古文書研究」(『日本歴史』(374) 吉川弘文館 1979 [Z210.05/3])
- ◆ 福井保「和学講談所の蔵書と内閣文庫」(『内閣文庫書誌の研究』福井保著 青裳堂書店 1980 (日本書誌学大系12) [020.11/12])
- ◆ 福井保「武州文書」(『江戸幕府編纂物 解説編』福井保著 雄松堂出版 1983 [027.1/1/1])
- ◆ 白井哲哉「近世政治権力と地誌編纂」(『歴史学研究』(703) 青木書店 1997 [Z205/4])

### <編者について>

- ◆ 「杉山博先生古稀記念号」(『駒沢史学』(39)(40) 駒沢史学会 1988 [Z205/11])
- ◆ 所理喜夫「故杉山博先生の学問とその系譜」(『戦国期職人の系譜：杉山博博士追悼論集』永原慶二他編 角川書店 1989 [K24.7/82])
- ◆ \* 『萩原龍夫』萩原龍夫先生追悼会 1986
- ◆ 「萩原龍夫年譜・著作目録」(『中世東国武士団と宗教文化』萩原龍夫著 岩田書院 2007 [K24/421])

### <内容について>

- ◆ 柴辻俊六「杉山博・萩原龍夫編『新編武州古文書』上」(『日本歴史』(331) 吉川弘文館 1975 [Z210.05/3])